世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

認知行動療法研究誌3号：表紙,目次,投稿規定,編集後記,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1878

武蔵野大学
認知行動療法研究誌

【特集：遠隔認知行動療法】
■特集によせて：遠隔認知行動療法の可能性　辻惠介

■心的外傷後ストレス障害に対するインターネットを利用した認知行動療法の実践
今野理恵子

■社交不安症における近年の VR エクスポージャー研究と有用性について
渡邉美紀子　他

■死別による悲嘆に対するオンライン治療についての近年の動向
中山千秋　他

【総説】
■ビデオ通話による持続エクスポージャー（PE）法研究の動向に関する予備的レビュー
佐々木真由美　他

学会便り／書評／活動報告／投稿規定／編集後記

2021 年　第 3 号
武蔵野大学認知行動療法研究所

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第3号
目　次

特集：遠隔認知行動療法

特集によせて：遠隔認知行動療法の可能性 …… 辻惠介… 1

心的外傷後ストレス障害に対するインターネットを利用した認知行動療法の実践
…… 今野理恵子… 2

社交不安症における近年の VR エクスポージャー研究と有用性について
…… 渡邉美紀子　他… 9

死別による悲嘆に対するオンライン治療についての近年の動向
…… 中山千秋　他… 22

総説：ビデオ通話による持続エクスポージャー（PE）法研究の動向に関する予備的レビュー
…… 佐々木真由美　他… 34

学会便り：Virtual Conference European Society for Traumatic Stress Studies 2021 報告
…… 片柳章子… 51

学会便り：第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会（合同開催：第 18 回日本うつ病学会総会）
…… 牧野みゆき… 53

書評：『遠隔心理支援スキルガイド』…… 松田陽子… 54

活動報告 …… 56

投稿規定 …… 58

編集後記 …… 61

2021年度「武蔵野大学認知行動療法研究所」投稿規定

本誌は他誌に発表されていない原稿のみを掲載します。投稿者は、武蔵野大学認知行動療法研究所研究員、武蔵野大学認知行動療法研究所客員研究員、名誉教授、人間学専攻後期博士課程院生、本学非常勤講師に限ります。これらの者が筆頭著者または共著者に含まれている場合、投稿を受け付けます。他誌に投稿中、印刷中または掲載済みの論文と主要部分が重複した論文は受け付けません。この点に触れる恐れのある場合は、重複すると思われる論文のコピー1部を投稿論文とともにお送り下さい。ただし、研究報告書、学会発表ならびに抄録での発表は除外対象としません。

Ⅰ　投稿論文・原稿の種類

	①原著	②資料	③総説	④症例報告	⑤実践報告
字数	10,000字程度			8,000 字程度	
邦文抄録・キーワード	400 字以内・5個以内			200 字以内・5個以内	
英文抄録・キーワード	250 ワード以内・5個以内				
倫理的配慮の記載	要			要	

Ⅱ　提出に関する規定

1. ワードプロセッサー使用の場合、1頁を文字数1,200（横40 × 縦30で印字されたA4サイズの用紙）にして下さい。
2. 原稿には表題、氏名，所属とその住所を記載して下さい。Ⅰ①②③には、英文で表題、氏名、所属とその住所も記載して下さい。これらに加え、抄録、倫理的配慮は規定枚数に含みません。
3. 図・表・写真は各々につき400字として規定枚数に含みます。写真はカラーではなく白黒にし、鮮明なネガまたは鮮明にプリントアウトされたものをお送り下さい。または電子ファイルにて添付して下さい。なお、原稿、写真、ネガについては返却しませんのでご了承下さい。
4. 投稿の際は（本規定末尾参照）より「投稿者カード」をダウンロードし、ご記入の上、同封ください。
5. 「原著」は、武蔵野大学認知行動療法研究所（以下研究所）の主旨にふさわしい主題について著者自身の研究によって得られた洞察に基づいて独自の考察をした論文とします。原則として研究の意義、方法、結果、考察を含みます。
6. 「総説」は、研究所の主旨にふさわしい主題について関連する学術論文、書籍等を網羅的に検討し、新しい知見を提示した論文とします。論文の収集並びに検討方法が恣意的ではなく体系的であること、その方法論が示されていること、先行する総説には見られない知見が含まれることが必要となります。

7.「資料」は、研究所の主旨にふさわしい独自性の高い資料等とします。
8.「症例報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる臨床例について報告して下さい。
9.「実践報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる実践について報告して下さい。

Ⅲ　倫理・利益相反

1. 研究論文については、方法論の中に「倫理的手続き」という項目を設けて下さい。その項目の中に著者所属機関の倫理委員会の承認の有無、対象者の同意を得た方法などを明記して下さい。資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載して下さい。助成・寄付を受けての研究等については、その旨を記載して下さい。また症例記述については匿名性について最大限にご配慮下さい。症例報告については、対象者の同意書コピーの提出を求めることがあります。疫学研究、医学的臨床研究、ゲノム研究については、該当する倫理指針を参照して下さい。
2.「原著」「資料」「総説」「症例報告」「実践報告」「特集」の著者は、武蔵野大学で定める利益相反（COI）自己申告書を記入し、原稿とともに提出して下さい。

Ⅳ　共著者

共著者の投稿同意については、「共著者承諾書」に、必要事項を記載の上、共著者の自筆署名を付けて下さい。

Ⅴ　用語

外国の人名・地名は原語表記とし。薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いて下さい。その他の学術用語、専門用語は、日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所に原語及び略語を（ ）で付記して下さい。再出箇所では略語表記も可能です。

Ⅵ　文献

1. 文献引用は必要最小限のもののみをあげて下さい。なお、文献引用欄は規定枚数に含みます。
2. 各文献は著者名のアルファベット順に番号を付し（同一著者の場合は，発表順）、本文中にその番号で引用し、本文中の引用は番号を上付きにして下さい。 例）小西 3) によると
3. 欧文雑誌名の略称は Index Medicus に従い、（Am.J.Psychiatry のように省略のピリオドをつける）、邦文雑誌は公式の略称を用いて下さい。
4. 著者氏名は３名以下の場合は全員、４名以上の場合は３人目まで書き、後は et al.（または、ほか）として下さい。
5. 文献の書き方は、以下を参照して下さい。

書式	記載例
著者氏名：論文題名。 雑誌名、巻；起頁 - 終頁、 西暦年号．	中島聡美，伊藤正哉，村上典子ほか：災害による死別の遺族の悲嘆に対する心理的介入．トラウマティック・ストレス，10；71-76，2012.
	Shirotsuki, K., Uehara, S., Adachi, S., et al.: Internet-based cognitive behavior therapy for stress and anxiety among young Japanese adults: a preliminary study. Psych, 1; 353-363, 2019.
単行本 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 - 終頁，西暦年号． （翻訳も同じ書式）	小西聖子　編著：犯罪被害者のメンタルヘルス．誠信書房，東京，2008.
	American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM-5 -5th ed.. American Psychiatric Association, Arlington, 2013.（染谷俊幸，神庭重信，尾崎紀夫ほか訳：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル．医学書院，東京，2014.）
単行本の中の論文 著者氏名：論文題名． 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 - 終頁，西暦年号．	中島聡美，白井明美，小西聖子：災害による喪失と死別への心理的ケア・治療．加藤寛ほか編：災害時のメンタルヘルス．医学書院，東京，pp 113-120，2016.
	Cahil, S.P., Rothbaum, B.O., Resick, P.A., et al.; Cognitive-behavioral therapy for adults. In Foa, E.B., Keane, T.M., Friedman, M.J. et al., eds.: Effective treatments for PTSD: practice guidelines from the International Society for Traumatic Stress Studies. Guilford Press, New York, 139-222, 2009.

Ⅶ　その他

1. 原稿の採否は編集委員会で査読の上決定します。査読は投稿者の氏名および所属を伏せて行います。また、編集方針により加筆削除等を依頼することがあります。
2. 著者校正は原則として一度のみ行います。掲載された論文には、掲載誌１部と、別刷 10 部を進呈します。
3. 原稿１部ならびに原稿を保存した電子ファイルを武蔵野大学認知行動療法研究にメールでお送り下さい。なお必ずお手元にコピーを保存して下さい。（メールアドレス：cbtinst@musasino-u.ac.jp）
4. 投稿規定は改訂されることがあります。最新の投稿規定もしくは改訂の情報の有無を、必ず研究所ホームページでご確認下さい。
5. 研究成果が「武蔵野大学　認知行動療法研究所紀要」に掲載された場合、同研究成果は武蔵野大学学術機関リポジトリへも登録され、インターネット上に公開されます。そのため、投稿にあたっては、武蔵野大学学術機関リポジトリ規定に基づき、著作権処理を完了しておいてください。

編集後記

編集委員
今野理恵子、中島聡美、牧野みゆき（五十音順）

令和３年度も、新型コロナウイルス感染症の蔓延が続く状況での、認知行動療法研究所の活動となりました。対面による心理療法の困難は、今後もしばらく続くことが予想されます。その中で、遠隔心理療法への関心は著しく高まっていると言えます。今号では、遠隔による認知行動療法を特集としてとりあげました。インターネット通信や、またそれを利用したコミュニケーションツールの発達は著しいものがあります。この特集を通して、感染症の問題だけでなく、より多くの必要としている方々にとどけられる心理療法としての遠隔認知行動療法について臨床家の方々の実践に役立てることを希望しております。(SN)

COVID-19 の収束の願いはかなわず、with コロナも３年目に入ろうとしています。昨年度はオンライン環境を整え、オンライン CBT を手探りで行いましたが、今年度の認知行動療法研究所では、多くのケースの心理療法をオンラインで行うことができました。その中で見つかった課題について、今後取り組んで行ければと思っております。(RK)

この度の発刊に関しご協力やご指導いただきました皆様、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。コロナ禍の状況はワクチン接種の普及などにより変化していますが、メンタルヘルスへの負担に関する懸念に対し、今回のテーマのような遠隔 CBT がさらに発展することが期待されていると思います。それによって、必要な方へ必要な支援やサービスが届きやすくなることを願い、皆様にもぜひ読んでいただけましたら幸いです。(MM)

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第３号

2022 年 3 月　印刷・発行

発　行　武蔵野大学認知行動療法研究所
住　所　東京都江東区有明 3-3-3
印　刷　株式会社ワコー

Journal of Musashino University of Cognitive Behavioral Therapy and Research

Vol. 3 Mar. 2021

CONTENTS

【Cognitive Behavioral Therapy Using Tele-Technology】

■ The Sense of Cognitive Behavioral Therapy Using Tele-Technology Keisuke Tsuji

■ Implementation of Internet-Based Cognitive and Behavioral Therapy for Posttraumatic Stress Disorder Rieko Konno

■ Virtual Reality Exposure for Social Anxiety Disorder: A Review of Recent Studies and Its Effectiveness Mikiko Watanabe, et al.

■ Recent Trends in Online Therapy for Grief After Bereavement Chiaki Nakayama, et al.

【Review】

■ A Preliminary Review of the Literature on Prolonged Exposure Therapy for Posttraumatic Stress Disorder Using Videoconferencing Mayumi Sasaki, et al.

Conference Report/Book Review/ Research Progress Report/ Submission Guideline/ Editorial Note

Published Annually by
Cognitive Behavioral Therapy and Research Instifutc
Musashino University